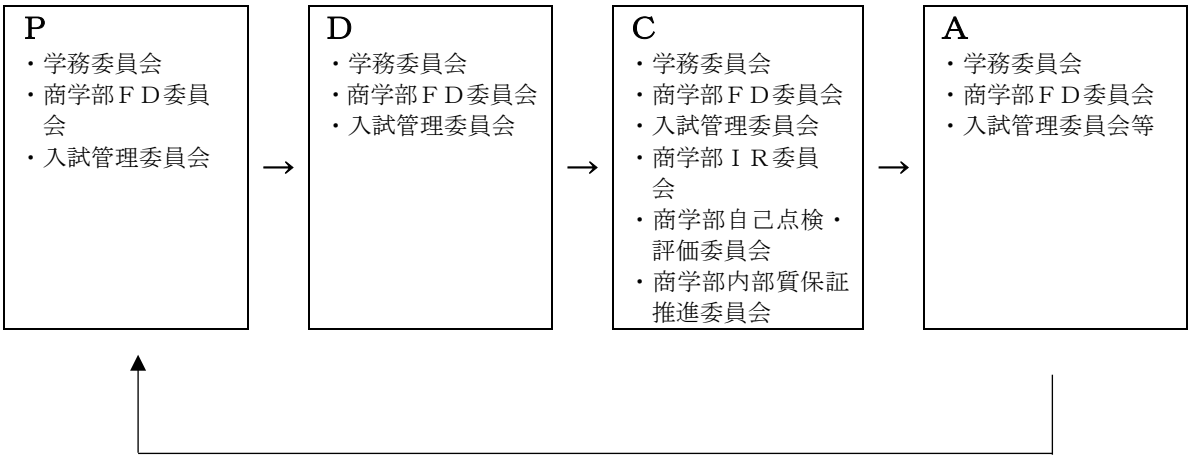
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　商学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

(1)　点検・評価の体制

内部質保証システムの有効性及び適切性に関して，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証の充実を図るため，商学部内部質保証推進委員会が中心となって，商学部自己点検・評価委員会，学務委員会及び商学部ＦＤ委員会等と協力しつつ，本学部の教育・学修等が理念・目的をはじめ，商学部における３つのポリシーなどに照らし，どの程度到達しているか等を検証し，教学の質を保証できるよう対応している。

(2)　改善事項への対応

自己点検・評価及び監事監査の結果，商学部が独自で行っている商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価の結果を，商学部内部質保証推進委員会で総合的に検証した上で，教育課程の編成などの学務事項は学務委員会，教職員のＦＤ活動の活性化等については商学部ＦＤ委員会，入学者選抜事項は入試管理委員会，学習者のラーニングアウトカ

ムを中心にデータや情報の収集・分析の上，可視化し教育改善へ寄与する商学部ＩＲ委員会，地域・社会との連携として商学部社会連携センター運営委員会などと共有し，各部署において教育活動の更なる改善を図っている。

(3)　点検・評価における外部評価の仕組み

具体的には，「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，内部評価者７名及び外部評価者３名が，以下項目において点検・評価を実施している。なお，外部評価者には点検・評価を実施する前に説明を行い，その内容を点検・評価表へ反映させている。

ア　入学者選抜（学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえると，適切に設定されているか等）

イ　カリキュラム内容（教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえると，授業科目群の構成，授業科目の位置付け〔必修・選択等〕及びバランスは適切であるか等）

ウ　学修成果（授業科目ごとに，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示された８つの能力のうちどの能力に該当しているか等）

(4)　結果の共有と改善促進

関係委員会での対応の結果を商学部内部質保証推進委員会で報告している。特に重要な改善事項については，専任教員会にて幅広く意見を聴取し，教授会での審議を経て，組織的に対応を進めている。

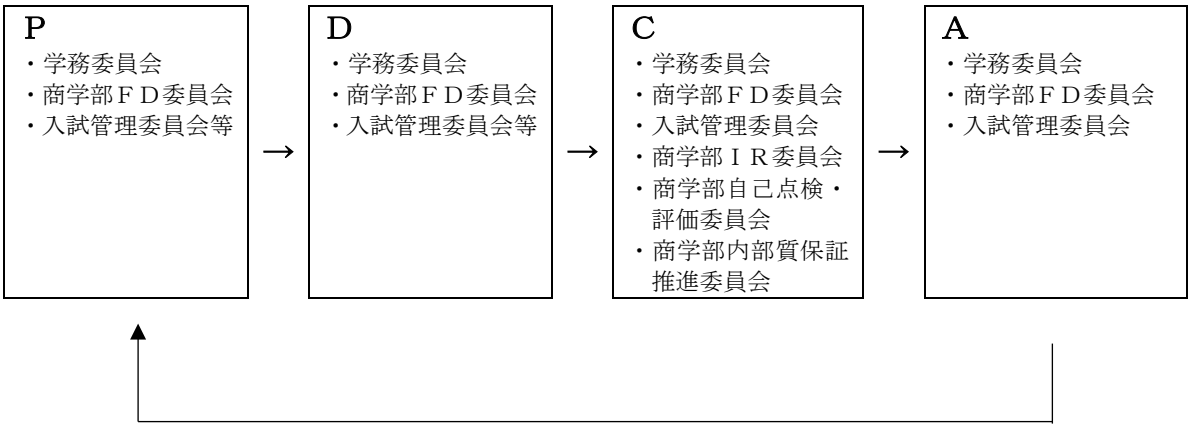
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

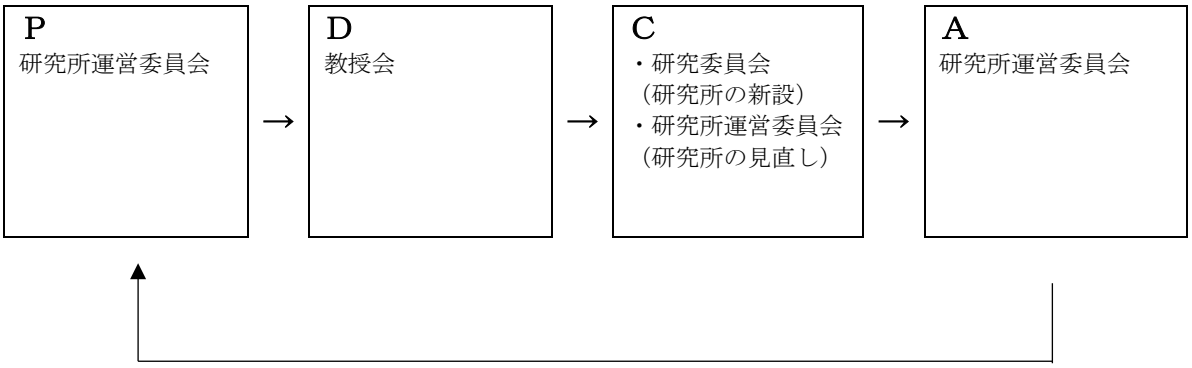
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育組織に関する事項】



【研究組織に関する事項】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織に関して，商学部内部質保証推進委員会において，本学部における教育活動の取組等に関し，３つのポリシーを踏まえた適切性に係る点検・評価を行い，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証を図ることを目的として定めている「日本大学商学部及び大学院商学研

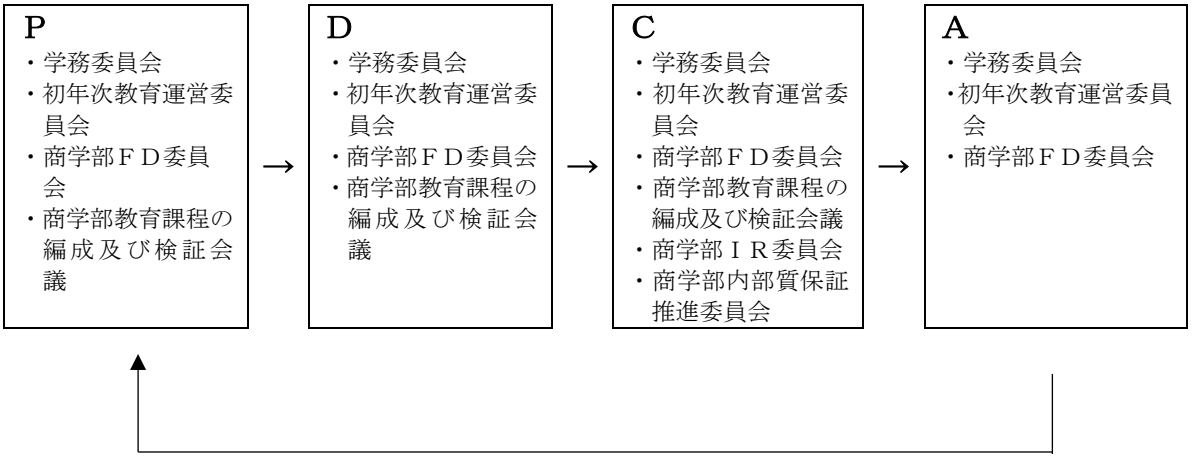
究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，毎年度点検・評価を行っている。
　なお，令和７年度改正カリキュラムに伴い，従前の「商学部コース科目担当者会議」及び「商学部総合教育科目担当者会議」を廃止し，新たに商学部における教育の質を保証し効果的な学修支援計画を立案し実行することができる組織として「商学部教育課程の編成及び検証会議」を設置した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会が中心となり，本学部における教育活動の取組等に関し，３つのポリシーを踏まえた適切性に係る点検・評価を行い，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証を図ることを目的として定めている「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，内部評価者７名と外部評価者３名による点検・評価を年１回実施し，検証を行っている。また，３つのポリシーについて，商学部教育課程の編成及び検証会議に対し，適切であるかを学務委員会から各検証会議の代表者へ確認依頼を行っており，その結果を商学部内部質保証推進委員会にて検証している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

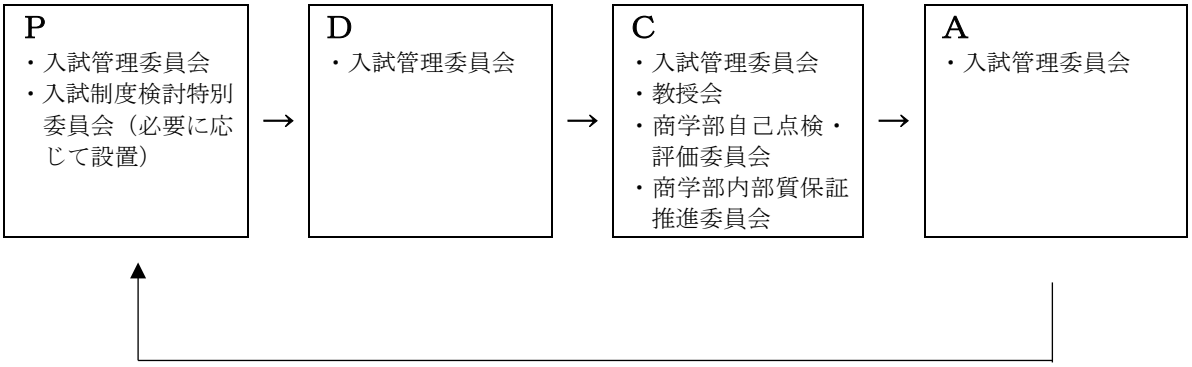
自己点検・評価結果において，商学部内部質保証推進委員会を中心にして，教育課程及びその内容に関しては学務委員会，教育改善・向上に関しては商学部ＦＤ委員会，初年次教育に関しては初年次教育運営委員会にて検証し，改善の必要がある場合は対応している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れに関わる事項について，入試管理委員会が主として定期的に点検及び評価を行っている。入学者の学力水準を維持する目的から，入学志願者状況の動向を捉えた上で，入試管理委員会が入学者選抜に係る方式，募集人員及び選考方法等を見直しており，最終的には教授会で審議し意見集約を行っている。

具体的には，大学入学模擬試験情報等を扱う外部業者からの分析結果に加え，入学者選抜の妥当性・適切性の評価として，一部の選抜方式で入学後の学業成績の情報（ＧＰＡ）等を活用している。また，より優秀な学生を受け入れることを目的とした改善策として，学校推薦型選抜（指定校制）では，本学部の指定高等学校等との関係強化に努めている。

入学者選抜の状況については，毎年度始めの専任教員会において，入試管理委員長から専任教員に対して報告を行っている。

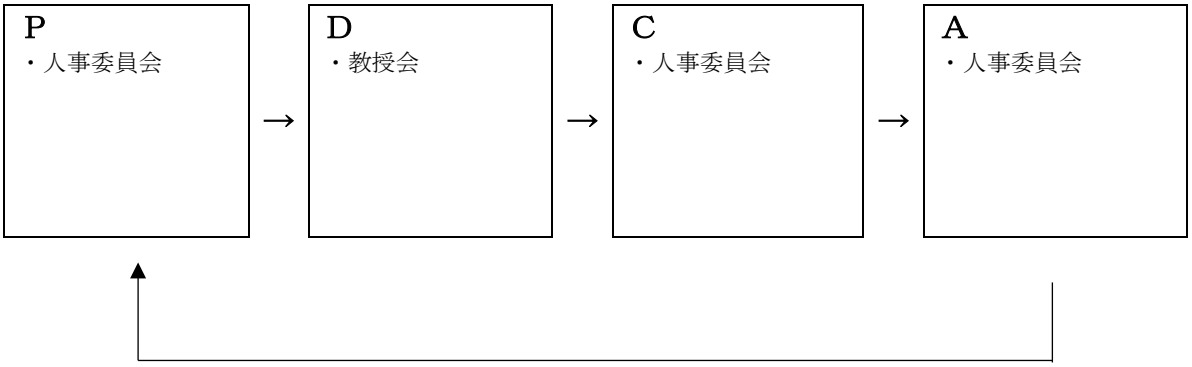
社会状況等の影響により，学部独自で入学者選抜を大幅に見直す場合は，学部長が「入試制度検討特別委員会」を設置の上で諮問し，入試管理委員会，担当会議及び教授会の審議を経て答申する。過年度の入学者選抜の大幅な変更として，令和４年度の入学者選抜で総合型選抜を導入し，令和６年度入学者選抜で外国人留学生選抜（第２期）を導入している。導入した入学者選抜の検証や社会状況の変化に対応するための小幅な変更については，入試管理委員会，担当会議及び教授会での審議を経て変更等をしている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

商学部は，教員組織を維持するための人員を確保するために，人事委員会において教員の昇格・採用を含む中・長期にわたる教員組織・人事計画を行っている。教員人事については，「商学部教員採用の取扱いに関する要項」に基づき，人事委員会で教員の新規採用に係る募集要項（採用科目等）や採用に係る教育研究業績に関する事項，「商学部教員昇格の取扱いに関する要項」に基づく昇格に関する事項，その他特任教授の委嘱や非常勤講師の新規採用等について審議し，教授会に上程している。特に，新規教員採用人事案件に関しては，人事委員会で募集要項（採用科目等）を精査し，人事委員会から教授会に募集要項（採用科目等）を上程している。教授会は，人事委員会案の妥当性・適正性を審議の上，公募を開始している。採用候補者の審査過程の透明化を図るため，人事委員会案の専門小委員，業績審査員を教授会で公表し，その妥当性・適正性を教授会で審議している。教授会の審議を受けて，次年度の教員採用等の教員人事案件を人事委員会において検討を行い，次回以降の採用計画に反映させるなど，教員組織の充実を図っている。

なお，点検・検証の結果，改善・向上を図った事例としては次のものが挙げられる。一つは，年齢構成の歪みを改善するために，助教，専任講師及び准教授を中心に新規採用人事を進め，若手教員を増員した。もう一つは，専門科目の充実・強化を図るため，過去 20 年間において専任教員が担当した科目の洗い出しを行った。その結果，直近の退職者の科目を中心とした補充人事だけではなく，専門科目を充実・強化するための新規採用人事を進めた。

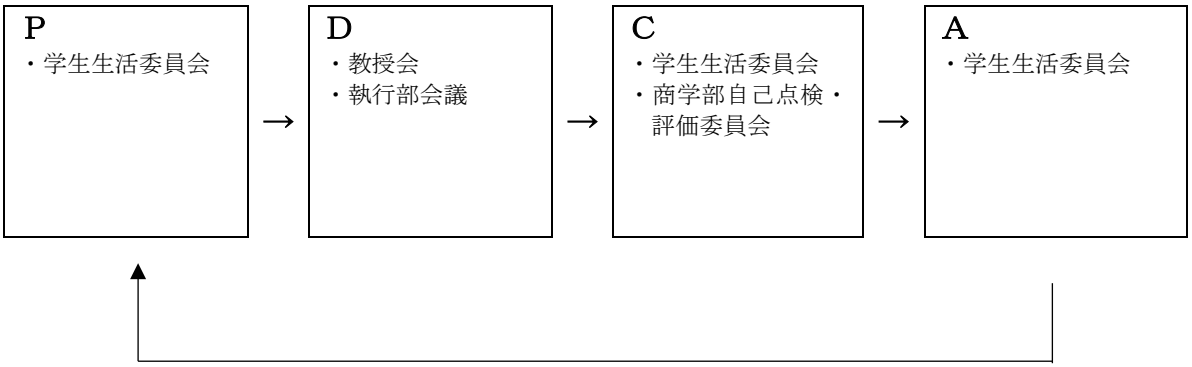
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

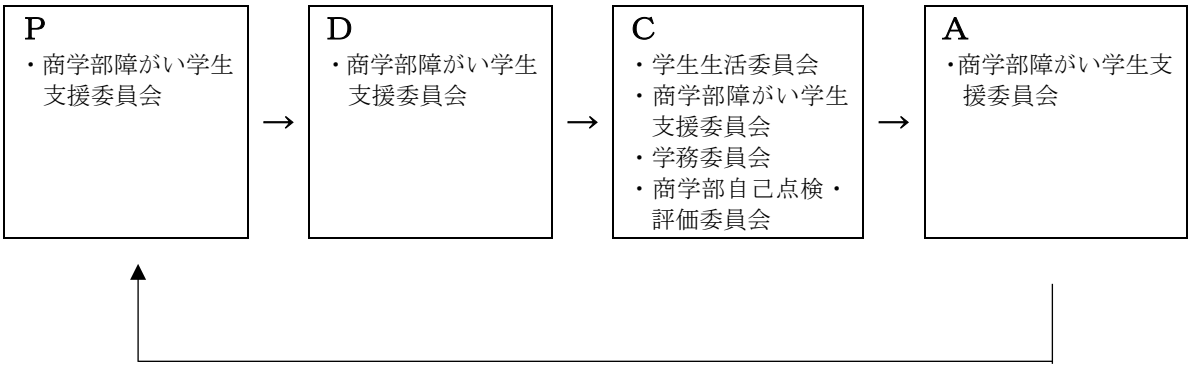
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

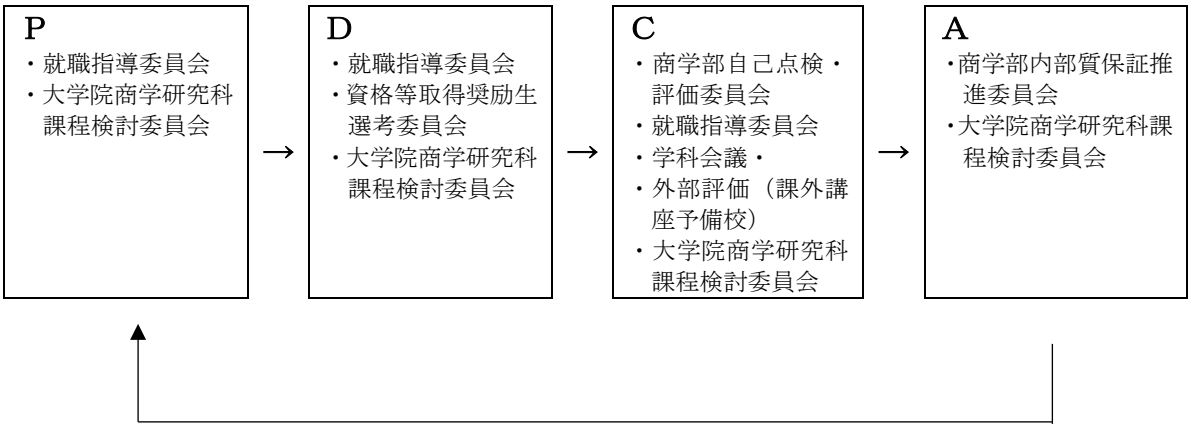
【学生生活に関する事項】



【障がい学生支援に関する事項】



【就職支援に関する事項】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取

組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項について，学生生活委員会及び商学部障がい学生支援委員会が点検・評価を行っている。学生生活の充実と安全を目的とし，学生生活での問題点を踏まえてしかるべき措置を点検・評価している。

学生生活委員会では，コロナ禍により，活動が縮小・減少してきていた学生団体の活性化を図るべく，改善策として，従来の内規では一定期間活動を休止していた団体は廃部とする内容であったところ，コロナ禍の休止期間を猶予期間として除外し，かつ各学生団体がどのような位置付けであるのかを再確認するため，令和５年度内に「日本大学商学部学生団体に関する内規」を改正し，令和６年度から施行した。また，団体活動補助費についても，申請方法を知らない団体があったことを踏まえ，年度当初に説明会を実施した。その結果，令和６年度の公認学生団体は 24 団体となり，学生団体に所属する学生は徐々に増えているものの，団体補助費の申請数は多くなく，今後の検討課題である。

また，学生の健康維持，体力増進及びストレス解消を目的として，トレーニングルームを管理運営している。各機器については，安全性を保つことを重視し，老朽化が危惧されたものについては，管財課と連携し令和６年度から３か年計画で機器の入れ替え，学生が安全，安心して利用できるようにしており，今後も学生の健康維持の観点から点検・評価を継続していく。

また，障がい学生に対する支援については，障がい学生への合理的配慮が義務化されたことにより，本学部でも商学部障がい学生支援委員会において，合理的配慮の提供や決定，点検・評価を行っている。特に修学における合理的配慮については，商学部障がい学生支援委員会において，個々の支援内容を徐々に構築することができており，各学期末の合理的配慮を受けた学生からのモニタリング満足度では高い評価を受けている。全ての希望に対して対応するのは困難であるものの，可能な限り対応し，より 100%に近づけることが今後の検討課題である。更には，年々，合理的配慮希望者は増加しており，学生と大学側の配慮における内容の認識差異が生じることもあり，各授業担当者へのオンライン授業やレポート提出による措置等の依頼により，教員の負担が増えていることから，商学部障がい学生支援委員会と学務委員会が協力し合い，障がい学生を取り巻く環境においても今後は改善に向けて効果的に点検・評価を行っていく。

最後に，前回の概評で「学生に対して，経済的支援（授業料減免，学内外の奨学金を通じた支援を除く）が未実施又は記述していない学部が散見される」とされた点について，商学部では，学生の負担軽減を図るとともに健康促進を目的として，学生に対して 100 円にて朝食を提供している。これまでは，１日に２～３メニューで常に同じメニューであったが，利用学生からの声を受け，食堂運営業者に対し予算内での日替わりメニューの提案を依頼し，更には営業時間の延長を実施した結果，現在ではより多くのメニューの提供が可能となり，学生の継続した食堂利用を支えている。令和６年度の朝食利用者数は，8,274 名であった（令和７年度は 11 月 30 日現在で 8,310 名）。

就職支援については，教学に関する基本方針に基づき，学生が主体的未来選択できるよう就職指導委員会が学部執行部と意見交換しながら，キャリア支援の充実を図っている。

令和６年度自己点検・評価報告書に記載のとおり，就職指導課員による学生面談の質向上の取組が功を奏し，学生の就職個別相談件数が，学部と大学院合わせて令和３年度 631 件，令和４年度 1,179 件，令和５年度 1,591 件，令和６年度 2,217 件と増えてきた。学生相談後のアンケートにおいて，令和５年度は大変良かった 91.0%，良かった 9.0%，普通以下 0%であったが，令和６年度は，大変良かった 96.9%，良かった 3.1%，普通以下が 0%であり，学生の悩み

解消と成長を導くことができている。

近年，有料職業紹介事業を営むエージェント会社が 20,000 社程度存在しており，学生と早期に接点を持ってしまうことから，学生の職業選択の自主性よりも各社が保有する求人に誘導して紹介料重視となってしまうことが問題になっていることが学生面談を通して確認されている旨，就職指導委員会から専任教員会において報告された。エージェント活用の功罪について就職ガイダンスや学生ポータルにおいても説明を行い，学生の職業選択におけるトラブルを回避する措置を講じた。

令和７年度に入り，より多くの学生との接点を増やし，自身のキャリアについて向き合う機会を提供したいことから，就職指導委員会において，新たに「出張就職指導課」を企画し，キャリアに関連する授業，サブゼミナール等において教職協働で学生と向き合い始めた。普段就職指導課を利用しない学生層にも自身のキャリアと向き合う機会とすることができ，その後の利用にもつながっている。

令和６年度は動画で保護者向けに就職ガイダンスを行ったが，需要が確認できたため，令和７年度には新たに対面形式にて実施している。

商学部では，公認会計士，税理士をはじめとした会計専門職を志す学生及び合格者数の向上を図っているが，その前提として，１年生の４月から課外講座である簿記３級講座受講をガイダンス等にて促し，令和６年度は 277 名の受講があった。しかし，令和７年度は 105 名まで減少した。学部長から，会計学科に会計専門職の志望者数及び合格者数を増やすための諮問があり，就職指導委員会，会計学科及び課外講座運営予備校により検証のため学生へのヒアリングを実施したところ，新カリキュラムの開始，90 分授業から 105 分授業への変化，学生の気質の変化等多様な環境の変化によるものと分析された。これを受けて，学部長判断の下，教授会まで説明し，例年実施していない 10 月開講の簿記３級講座を実施することとし，授業，ガイダンス等で再度簿記の魅力，必要性及び優位性を説明したところ，新たに 65 名の受講者が学んでいる。

続いて，大学院においては，教学に関する基本方針に基づき，大学院学生が主体的未来選択できるよう就職指導委員会が学部執行部と意見交換しながら，キャリア支援の充実を図っている。

令和６年度全学自己点検・評価報告書に記載したとおり，就職指導課員による学生面談の質向上の取組が功を奏し，学生の悩み解消と成長を導くことができている。

商学研究科においては，在籍者の９割以上が留学生という特徴があることから，令和６年度には大学院商学研究科課程検討委員会が計画し，商学部ＦＤ委員会と就職指導委員会で協働して，外国人留学生と大学院担当教員と就職指導委員会とで日本における就職と出身国における就職活動について意見交換し，お互いの状況について理解を深めた。これにより，日本における就職活動の相談，ビザ更新手続等について理解を深め，就職指導課との接点を増やすことができた。

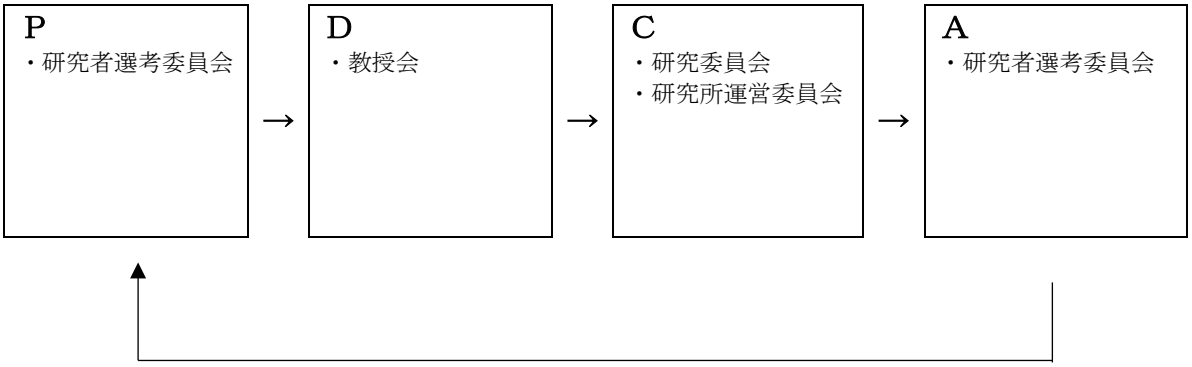
この内容は，商学部自己点検・評価委員会，商学部内部質保証推進委員会でも検証，確認され執行部が就職指導委員会と今後について検討していく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究費の給付額や共同研究の枠組みを研究委員会及び研究所運営委員会で点検・評価している。

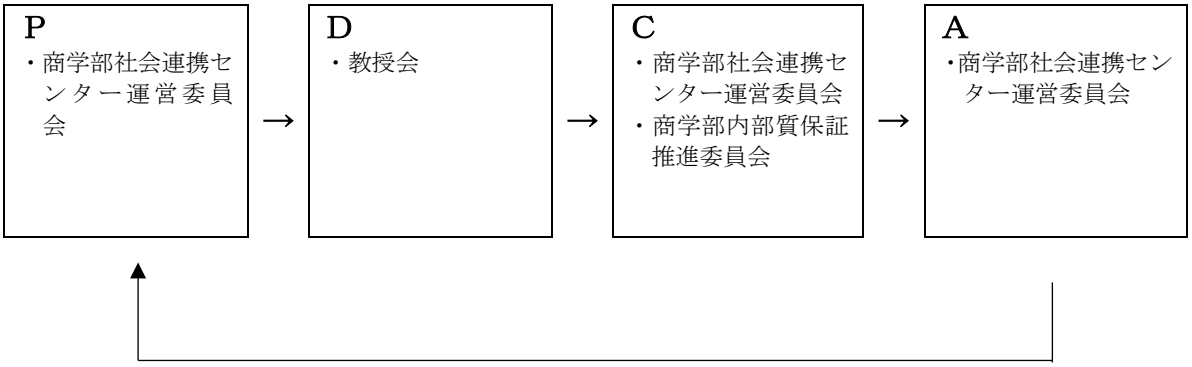
研究委員会及び研究所運営委員会で研究費を持ち寄り実施している特定・横断的プロジェクト共同研究について，近年，申請件数が少ないことから募集要項の見直しを図るとともに，将来的に外部資金獲得につながるよう検討を予定している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会は，教育活動の点検・評価に基づき，地域社会への貢献の在り方について点検・評価を行い，地域社会とのつながりを試みていることは好ましいと思われるが，地域社会にどのように周知し，広げていくかの検討が望まれるとのコメントを受けて，地域社会への周知及び拡大の課題が浮き彫りになった。

また，商学部社会連携センター運営委員会は，教職員の社会連携状況調査を実施し，その結果に基づき，個人ベースで実施していた社会連携活動（新潟ビジネス研究会での講演等）に対して，旅費等の経費を本学部から一部支給する必要性を認識した。そのため，砧祭（学園祭）で，本学部のゼミナールと企業等の連携企画として「砧マーケット」を実施し，地元企業にも出展いただき，地域社会との連携について周知・拡大に取り組んだ。また，教職員が社会連携活動について旅費等の支給を受けることにより，積極的に当該活動に参画することを目的として，社会連携活動における旅費等の支給に関する要項を制定し，必要となる旅費等の支給をすることにより，社会連携活動の推進につなげた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし